

平成 23 年 5 月 12 日

各 位

会社名 株式会社デュオシステムズ  
 代表者名 代表取締役社長 恩田 饒  
 (コード番号：3742 東証マザーズ)  
 問合せ先 管理本部長 後藤 晴文  
 ( 電話番号 03-5319-3668 )

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### ●業績予想の修正について

平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	610	26	10	7	107.23
今回発表予想(B)	613	△80	△99	△99	△1,396.40
増減額(B-A)	3	△106	△109	△106	—
増減率(%)	0.4	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	284	△190	△209	△234	△4,998.33

#### 修正の理由

当社は、成長力の高い企業を目指して、これまでの支柱であった官公庁、地方自治体、独立行政法人に加え、民間分野へのコンサルティング事業、システム開発事業などシナジーのある事業への進出を積極的に進めてまいりました。

その結果が徐々に実を結んできており、売上高の予想は 613 百万円となり、予想通りに推移する見込みとなりました。

一方、利益面におきましては、官公庁など公共部門へのコンサルティング業務に、これまで関心を示さなかった他のコンサルティング企業の進出などによる競争の激化、更には最低価格制度運用の拡大に伴い、当初見込んでいた額を下回る金額での受注など、依然としてマーケットは厳しい環境下におかれましては。

コスト面でも、あらゆる努力をいたしました。役員をはじめ管理職・一般職員の報酬・給与の減額、一般経費の削減などに取組んでまいりました。しかし、前向きな投資として、優秀な人材の確保などを行ってきた結果、前期実績と比較し大きく改善は致しましたが、全体として黒字化には至りませんでした。

今後の対応に関しましては、当社が総務省から受託しております「自治体クラウド開発実証事業の PMO」の分野を、重要な戦略分野として引き続き注力していくと同時に、民間分野への更なる営業の拡大、シナジー効果のある新規事業への進出、さらには、シナジー効果の見込める企業の買収など更なる前向きな努力を重ねると同時に、これまで以上にコストの削減を図り、安定的な黒字体質への転換を目指し、全社員一丸となって取り組んでいく所存です。これにより、今後の当社の業績は大きく改善していくものと考えております。

以上